

優秀賞 福島県 渡邊 紗 様 (高校生 女性)

先日、テレビを見ていたら、「老後の生活を幸せに送るためには1人2,000万円も必要なのか?」と話題になっていた。「普通の一般家庭で、1人2,000万円の蓄えは難しいよね?子供がいない家庭なら老後資金を蓄えらえると思うけど、我が家なんか二人の子供の教育費で厳しいのにね。私達の時には、もっと少子高齢化が進んでいくだろうから、今、年金を徴収されているけど、老後は年金を貰えないだろうね。」と、両親が話をしていた。

そういえば、私の姉が社会人になり初任給の明細を見て、「ママ!聞いて!変な名前の年金があって、千円単位じゃなくて万単位で給料から保険料として差し引かれているから手取りが減っているし会社で間違っているのかな?」と、母と話をしていたことがあった。その時、母は「公的年金でしょ?会社員だから厚生年金だよ。保険料としてお給料から天引きされているの。この保険料をきちんと納めていないと、老後に年金が貰えなくなるよ」と言っていたのを覚えている。私には、関係のないことと思っていたが、この2つの会話に違和感があった。前者は、「年金をきちんと納めているのに、老後には貰えない?」、後者は、「年金をきちんと納めていれば、老後には貰える?」あまりにも相違している。そもそも、年金って何?何のために納めるの?誰のために納めるの?老後に貰えなくなるなら自分で貯金をすればいいのでは?と、年金について疑問がでてきた。

調べてみることにした。長い人生の中で、年々お年を召してくると働くのが困難になるだけではなく、思いがけない事故や病気、怪我などで重い障害を負ってしまうことや、小さい子どもを残し亡くなってしまうこともあり得ること。「年金」とは予測不能な人生のリスクに備えて、国民が安心して暮らせるように国が制度化をしており、自分で両親や親族を養い高齢者や障害者へも国全体で支援をし、老後のための生活保障をするものである、ということが分かった。しかも、加入対象者は日本に住んでいる20歳から60歳までの方で、保険料を納めないでいると何かあった時に年金を受け取ることができないこと。そして、学生の間は保険料の納付を先送りすることができる「学生納付特例」という制度があることを知った。当初、私にはまだ関係ないと思っていたが、大学進学をしたら、2年後には「学生納付特例制度」が大きく関係してくるということを知った。将来、大学在学

中に怪我をして重い障害を負い就労が困難になった場合、きちんと保険料を納付していて、学生納付特例の猶予手続きをしていれば、「障害基礎年金」という年金を受け取ることができるということ。また、小さい子供を残し死亡した場合、残された遺族は「遺族基礎年金」を受け取ることができるということ。逆に、未納付であり未手続だと年金を受け取ることができないため、このことを知っているか、知らないかでは雲泥の差がでることになる。受け取ることができなければ、自分だけではなく家族にも金銭面で大きな負担をかけることになり、今後の人生設計に大きく関わってくることになる。

「祖父母世代が安心して暮らしていくには、両親世代がきちんと年金を納めること」

「両親世代が安心して暮らしていくには、私や姉の世代がきちんと年金を納めること」

「私や姉の世代が安心して暮らしていくには、未来の世代がきちんと年金を納めること」

この3つが、とても重要になってくる。なぜなら、このサイクルが崩れてしまうと1人の年金納付者が3人以上の年金受給者を養わないといけなくなる日がくるからです。両親世代が保険料を負担することで、祖父母世代の年金給付に必要な費用を補っているため、両親世代が働いて祖父母世代の生活を支えているということ。自分が支払っている年金額が将来自分に戻ってくるわけではないが、年金はいざというときの大きな味方であること。

「万が一」「もしも」の事態は、明日なのか！一ヶ月後なのか！何年後なのか！いつやってくるかわかりません。だからこそ、年金の重要性について、年齢に関係なく一人一人が興味を持つことが大切であり、今後年金を納めていかないと誰もが安心して暮らしていけなくなることをわかる必要があると思います。

私は、この重要性を姉に教えてあげようと思います。お給料から差し引かれているのは決して、変な名前の年金ではなく、私たち世代が老後の生活を安心して暮らしていくための、大切な「公的年金」という名称であることを。